

【社会】 < 小学校 第5学年 >

1 結果のポイント

「わたしたちの生活と食料生産」について、さまざまな食料が生産されていることやその大まかな内容についての理解をみる問題では、正答率が90%を上回っている。

グラフから読み取ったことと、文章資料から分かることを関連付け、日本の水田にかかる現在の問題点について自分の考えを記述する力をみる問題では、正答率が50%を下回っている。

「わたしたちの生活と工業生産」について、部品や製品の輸送にかかわる人たちの努力についての理解をみる問題では、正答率が85%を上回っている。また、日本の輸出や輸入の状況について円グラフから読み取る問題では、正答率が75%程度である。

「わたしたちの生活と情報」について、ニュース番組が制作される過程や、コンビニエンスストアでの情報の利用を図表から読み取る問題では、正答率が70%を上回っている。

文章資料から内容を読み取り、情報を利用するとき大切にすべきことについて当てはまる言葉を考えて記述する問題では、正答率が60%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > ② の 2 ② の 3

② 2 (前略)... にあてはまることばとして、最も適切なもの一つを選び、その記号を の中に書きましょう。
 高速道路などが整備されたので速く正確に運べるようになりました。一人で何時間も運転したり、ときには夜に運転したりするので、 には特に気がつかっています。
 ア 値段 イ 安全 ウ 環境 エ 生産

② 3 図1の中のBには、自動車が完成するまでのいくつかの工程が入ります。次の写真ア～ウを工程の順にならべかえたとき、2番目にくるものはどれか、その記号を の中に書きましょう。(図1は略)



ア とそう



イ ようせつ



ウ 組み立て

< 結果 > ② の 2 正答率 89.7% (正答...イ)

② の 3 正答率 55.5% (正答...ア)

< 分析 >

② の 2 は、「部品や製品の輸送にかかわる人たちの努力」についての理解をみる問題である。正答率は約90%と高かった。昨年度の「完成した自動車が消費者に届くまで」についての問題では、正答率が44.6%であり、経路も含めた輸送にかかわる理解が弱いことが明らかになっていた。昨年度の結果を踏まえて、「運輸の働き」にかかわって、輸送の経路を調べる活動等を取り入れ、その理解を深める指導が充実してきた成果と考えられる。

② の 3 は、正答率が低かった。下に示した、説明文を読んで当てはまるものを写真資料から選択する昨年度の問題では、正答率が85.6%と高かったのに対して、今年度は同じ写真資料を使っても順番を問う問題にしたところ正答率が下がった。このことは、自動車が生産される一つ一つの工程について写真資料とかわらせながら理解することはよくできているが、工程間の関係をとらえながら理解する活動や場が不足しているためであると考えられる。単一的な事象の理解にとどまらず、関係をとらえながら体系的に理解する指導が必要である。

< 昨年度出題の類似問題 >
 「プレス」のカードの説明文と入れ違えたカードを、ア～エから一つ選び書きましょう。
 (説明文) コンベヤーが車体をのせたまま動き、エンジン、タイヤ、シートなどを取り付けていきます。



(2) 「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

<問題> ① の 1

① 1 正さんは、自分たちが食べている食料のうち、国内でつくられているものはどれくらいあるか調べ、上の表1とグラフ1にまとめました。表1に示されたくだもの自給率を、他の食料と同じようにグラフ1に表しましょう。

<結果> ① の 1 正答率 73.3% (正答 略)

<分析>

この設問は、「表に示された具体的な数値を基に、棒グラフを正確に作成する力」をみる問題であり、昨年度の類似問題の正答率71.8%と比較すると、やや高くなってきたことが分かる。昨年度、「作図の技能を十分に身に付ける指導を行うこと」を課題として示してきたが、多くの学校で計画的に作図作業を取り入れた指導計画の整備と実施が行われてきたことによって、着実に力として身に付いてきたと考えられる。また、①の1に限らず、①の4(1)の地図の読み取りや他の「観察・資料活用・表現」の力をみる問題もすべて正答率が70%前後であり、**作図だけでなく、多様な資料の読み取りに関わる指導が充実してきた成果**であると考えられる。地図の読み取りについては、3年生からの学習とも関連させてさらに充実を図る必要がある。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> ① の 5 ② の 4

① 5 正さんは、日本の水田について、あることを問題だと考えました。次のグラフ2と資料1の両方から分かることをかかわらせて、どんなことが問題だと考えたのでしょうか。考えを の中に書きましょう。
(グラフ2と資料1は略)

② 4 自動車工業についてまとめる中で、自動車工場の人から次のような話を聞きました。文中の下線部はどんな車のことなのか、適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きましょう。
自動車は、生活に欠かすことのできない便利な乗り物ですが、交通事故、排出ガスによる環境の悪化などが問題になっています。わたしたちの会社では、人にも地球にもやさしく、安全な車の開発に取り組んでいます。
(選択肢は略)

<結果> ① の 5 正答率 31.0% (正答...エ)

② の 4 正答率 52.4% (正答 略)

<分析>

①の5は、「日本の水田面積が減少していることと水田の役割を関連付けて、減少による課題について考える力」をみる問題であるが、正答率は低かった。この問題では、複数の資料から事実を読み取り、事実間の因果関係を考える力が必要になる。記述に対する抵抗感からか無回答の割合が高く、誤答は一つの資料から分かることのみを記述しているものが多かった。

②の4は、「人や地球に優しい車の開発が進められている中、具体的にどんな車を開発していくことが、人や環境に優しいのか考える力」をみる問題である。この問題は、適切でないものを選択肢から選んで答えるものである。記述式ではないが正答率は低い。「人や地球に優しい」というキーワードを、これからの自動車開発と結び付けて考えることができるかどうかが大ポイントであるが、この問題からも①の5と同様に、異なる事象の関係を考察する力が十分に身に付いていないことが分かる。

いずれの問題からも、**複数の事実を比較し、関連付け、総合させて事象を分析的にとらえる思考を身に付ける学習の場の設定や指導が必要**であると考えられる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

学年の段階を踏まえた系統的な指導計画の作成を！

- ・今年度、中学校における調査結果から、方位や地図記号に関する知識や、都道府県の位置や県庁所在地に関する知識が十分に身に付いていないことが明らかになった。これらは小学校からの繰り返しの学習の中で身に付けていくべき力であり、基礎的・基本的な知識・技能の習得の弱さである。

・特に地図の読み取りや作図作業は、右表にあるように3・4年生からその学習が始まる。3・4年生の指導計画に、地図等の活用にかかわる内容が明確に位置付けられていることを確認するとともに、この段階で指導を繰り返すことによって、基礎的・基本的な知識・技能として習得を図る必要がある。その上で、5・6年生及び中学校の学習につなげていくよう、系統的な指導を意識した指導計画の作成を大切にしたい。

3・4年生の教科書に出てくる地図等の活用場面		
題材名	主な地図等の活用場面と内容	
わたしのまち みんなのまち	(学校のまわり) 絵地図作図 四方位、記号	(市のようす) 地形図読図 八方位 マップガイドづくり
人びとのしごと とわたしたちのくらし	(スーパーマーケット) 外国からはこぼれてくる しなもの 地球儀で確認	(農家のしごと) キャベツのおくり先 略地図読図
くらしをまもる	(火事がおきたら) しょうぼう地図の作成	(じこやじけんがおきたら) 道路標識・けいさつ地図の 作成
住みよいくらしをつくる	(ごみのしよ理と利用) ごみしよ理せつの地図	(水はどこから) 水が来る道 地図で確認 地図帳の使い方
きょう土につたわるねがい	(山ろくに広がる用水) 等高線の見方 断面図の作成	(のこしたいもの、つたえたいもの) ふるさとれきしまップの作成
わたしたちの県	地勢図、断面図、鳥瞰図、主題図(土地利用図、交通路) 5万分の1の地形図の読図	

(2) 指導方法の工夫改善

事実と事実の関係を明らかにする思考を大切に!

・資料から単一的に事実を見付け出す力は、よく身に付いてきている。ここでいう事実は、すべて課題解決のために必要なものであり、一つの実事のみでは解決することはできない。したがって、右図に示したように、学習の中で、常に教師は複数の事実を関わらせる場を意図的に設け、それらにどんな関係があるのかを明確にする過程で、考える力を育てるような指導を大切にしたい。

.....例

【資料 からどんなことがわかりますか?】
*日本の食料の自給率は約40%と、他の国に比べても低く、多くは外国からの輸入に頼っていることがわかります。

【資料 からどんなことがわかりますか?】
*多くのスーパーで、パンやスパゲッティの値段がすごく高くなっていることがわかります。

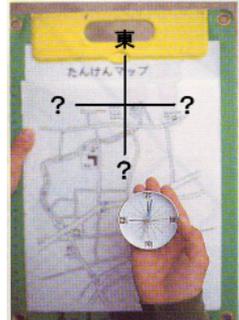
《この2つの事実を関わらせると、どんなことが言えますか?》

小麦の自給率は10数%と低く、外国からの輸入に頼っているから、その外国から買うときの小麦の値段が高くなったことで、小麦から作られているパンやスパゲッティの値段が高くなったんだと思います。
自給率が低いということは、こんなふう私たちの生活のいるんなどころで影響を受けることになるんだと思います。もし外国が売ってくれないって言ったら、とても困ってしまいます。

生活に生きて働く力としての確かな知識・技能の定着を!

・3年生における読図の学習で、「地図を見るときは上が北になる」という見方を教える。「北がこっちだから、東はこっち」と、北が分かれば東がどちらか答えられる児童が、「今進んでいる方向が東だから、北はこっちになる」と、北を探さなくても答えることができれば、生活に生きて働く力として身に付いたと言える。

・日頃から、校外での学習の際に方位を意図的に問いかけるなどして、確かな知識・技能として身に付けていく指導を大切にしたい。



(教科書3・4年上11頁)

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

空間・生活とのかかわりを広げる工夫を!例

・5年生では、扱う教材が日本全体から世界にまで広がるとともに、自分たちの生活とのかかわりもそれまでに比べて間接的になってくる。そこで、普段から意図的に児童の空間認識を広げたり、生活との具体的な接点をとらえたりするための工夫が大切になってくる。例えば、教室内に地球儀や世界地図、日本地図等を常設して、機会を設けて国名や都道府県名及び距離や方位の確認をしたり、それをグループ等でクイズ形式で確認し合ったりすることも効果的である。

・新聞記事を積極的に活用し、生活とのかかわりを具体的に示し、興味・関心を高めることを大切にしたい。また、家庭における学習としても、新聞やテレビニュースなどを読んだり見たりする中で、自分の考えや感想をまとめ、家の人と話し合うことができるように指導していきたい。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。[\(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/\)](http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

例	平成19年度 授業改善推進プラン 第5学年 育てたい見方・考え方を明確にして複数の視点を関連付ける授業構成に取り組んだ実践
例	平成18年度 学力向上P J授業改善 第5学年 児童が自分の生活とのかかわりを意識して追究できる単元指導計画の作成に取り組んだ実践
関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P87意識調査結果を参照する。	
小学校第5学年社会の授業において、児童が楽しいと感じるのはどんなときか。 第1位：観察や見学をして調べているとき 第2位：自分で疑問が解決できたとき	